

アダプテッド・スポーツ科学専門領域

植木章三（大阪体育大学）

1. あらまし

アダプテッド・スポーツ科学専門領域は、2005年11月に専門分科会として設置され、2012年4月1日より専門領域へと名称が変更となった。アダプテッド・スポーツとは、ルールや用具を障がいの種類や程度に適合（adapt）することによって、障がいのある人はもちろんのこと、幼児から高齢者、体力の低い人であっても参加することができるスポーツのことをいう。このアダプテッド・スポーツという概念は、障がいのある人がスポーツを楽しむためには、その人自身と、その人を取り巻く人々や環境を問題として取り上げ、両者を統合したシステムづくりこそが大切であるという考え方に基づくものである¹⁾。

これまで、アダプテッド・スポーツに関する報告等は、日本体育学会における運動生理学、運動心理学、バイオメカニクス、体育社会学、測定評価といった分野の中で行われてきた。しかし、それぞれの分野の視点を中心に議論が行われてきたために、アダプテッド・スポーツの普及・発展を目途にし、様々な方法論を駆使して統合的に議論する場としては十分とはいえないことから、この領域の発表の場の設定が求められてきた。毎年、会員数も増え、学会大会では、実践的、事例的な内容を含め30題を超える演題が発表されている。アダプテッド・スポーツの対象者は、障がいなどの特性を有している人が多いことから、個別的な対応が必要となるため、実践的、事例的な報告も実際の指導に役立つことが多い。今後、体育・スポーツの分野でも障がい者や高齢者に対するプログラムやサービス、施設や指導方法に関する研究が進み、それによって、スポーツ環境におけるバリアフリーやユニバーサルデザインへの研究も進展することが期待される。一般化に向けた取り組みときめ細やかな個別的な取り組みに必要な知見を積み重ね、真に誰もがスポーツの恩恵を享受することができることをめざして活動している。

最近では、小中高の教育現場において、特別な支援を必要とする生徒が少なくないことから、体育教員には特別な配慮が必要な体育指導ができる技量が求められるようになってきた。そこで、保健体育教員免許を取得する者には「アダプテッド体育」に関する科目の履修必修化を提案し、関連するシンポジウムを開催している。

2. 内外の研究動向

アダプテッド・スポーツに関連する学術研究団体には、日本アダプテッド体育・スポーツ学会（JASAPE）、日本障害者スポーツ学会、日本障害者体育・スポーツ研究会、医療体育研究会などがある。毎年、研究集会を開催しているが、特に、日本アダプテッド体育・スポーツ学会と医療体育研究会は合同大会をこれまでに17回開催した。また、日本アダプテッド体育・スポーツ学会からは、学術雑誌として2003年から「障害者スポーツ科学」が年1回刊行されており、2015年には雑誌名を「アダプテッド・スポーツ科学」に改め、2016年（14巻）までに33編の原著論文が掲載されている。

国際学会としては、IFAPA（国際障害者体育・スポーツ学会/アダプテッド身体活動国際連盟）やASAPE（アジア障害者・体育スポーツ学会）があり、それぞれ隔年で学術集會が開催されている。また、IPC（国際パラリンピック委員会）も隔年でVISTA 会議を開催している。

3. 科学的知見の応用の状況

「アダプテッド・スポーツ科学（旧障害者スポーツ科学）」に掲載された論文は、①競技スポーツの競技力向上、②高齢者の介護予防・健康づくり、③障がい児等の運動指導、④障がい者スポーツ普及・発展、⑤医療的リハビリテーションなどの領域に関する内容に概ね分類することができる。いずれも実際の実践や指導に役立つ内容がほとんどであるが、特に障がい児・者の場合には、障がい特性に応じた個別性を考慮した指導が必要となる。したがって、事例的な分析や実践報告が多い中で、科学的な指導やトレーニングに役立てるための科学的エビデンスを得ようとする取り組みの端緒となっている。今後はこれらの知見を足がかりとして、研究者間の科学的討論を通じて新たな研究成果の報告が期待されている。

4. 学校体育や大学体育に活かすべき最新知見

学校体育の中で知的障がいを有する子どもたちへの運動指導方法への配慮²⁾や、大学体育の中で障がい理解を深めるための障害者スポーツ実習の意義³⁾といった知見は、今後の教育内容を検討する上で有用な知見と考えられる。この種の研究活動が盛んに行われることが期待される。

5. 若手研究者へのメッセージ

アダプテッド・スポーツに興味をもつ若手研究者には、これまでの障がい者スポーツの現状の経緯や課題を理解してもらい、新しい視点から課題解決と発展に向けた提言に必要な新たな研究成果を上げてもらいたい。そのための灯台の光として藤田⁴⁾の著書をご高覧いただきたい。

なお、若手研究者の研究を奨励すべく、専門領域賞として3つの部門の研究奨励賞を設けている（論文、口頭発表、ポスター）。また、地域のアダプテッド・スポーツ科学専門領域活動の活性化を目的とした研究会、研修会、情報交換会などに対する活動支援助成金事業も用意されている。この機会にご入会いただき、ふるって応募していただきたい。

6. 引用文献

- 1) 矢部 京之助・他（2005）アダプテッド・スポーツの科学～障害者・高齢者のスポーツ実践のための理論～。市村出版：東京。
- 2) 平田正吾・他（2013）知的障害者における衝動型－熟慮型の認知スタイルと運動遂行に対する「ゆっくり」という教示の効果。障害者スポーツ科学，11:13-20。
- 3) 内田若希・大谷まや（2013）障害者スポーツ実習と障害疑似体験における障害理解の差異の検討。障害者スポーツ科学，11:33-41。
- 4) 藤田紀昭（2013）障害者スポーツの環境と可能性。創文企画：東京。

（2016年9月21日執筆）